

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4572100610		
法人名	医療法人浩洋会		
事業所名	グループホームゆりかもめ		
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町東栄町4-5-14 (電話) 0982-50-4189		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年6月26日	評価確定日	平成21年7月30日

【情報提供票より】 (平成21年6月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤13人, 非常勤0人, 常勤換算6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(平成21年6月4日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	6	要介護2	4
要介護3	6	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85.4歳	最低 74歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中病院、木村歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業母体である病院の敷地内にあり、周辺には鳴子川の穏やかな流れや高齢者が運動を楽しめる公園に恵まれている。また、町中に位置し近隣にはショッピングセンターがあり、利便性も高い。ホーム内は静かで落ち着いた雰囲気醸成し、広い共用スペースに大きなテーブルや掘ごたつ風の空間もあり、利用者もゆったりと過ごしているようであった。管理者の「自分の親を預けたくなるホーム作り」への思いが職員にも浸透しており、母体の病院との連携も利用者・家族の安心につながる大きな要素と思われる。ホーム設立後6年あまりであるが、全員でケアの向上を目指す姿勢がはっきりと見て取れた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのつきあいは、運営推進会議を通じて一歩ずつ前進している。重度化や終末期に向けた方針の共有については進展がなく、今回もその趣旨や目的を説明し十分理解を得た。鍵をかけないケアは、現状ではやむをえない事情が見られた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の目的や意義については、管理者のみならず職員全員の理解は十分であり、進め方にも問題は感じられなかった。ただ、設問の意味の捉え方に気になる部分が見られたので、ガイドブックを基に説明を加えた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の討議内容や進め方は際立ったものではないようであるが、参加者の幅を拓けるなど着実に進展している。また、この機会を活用して地域とのつながりを深める工夫も見られた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とのつながりは、ホーム便りやそれに添える手紙などで意見・要望の取り上げに努力していることがうかがえた。また、意見や要望が出た場合は申し送りノートなどで全員へ周知するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は、ホームとしては徐々に進みつつあるが、母体である病院の基本思想に「地域に根ざす」ということがあり、この活動と連動している。近隣でのショッピングや公園への散歩等で地域からの理解は進んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人のペースでその人らしく笑顔で生活できる」との表現で理念を表わしているが、その基本思想は「自分の親を安心して預けられるホーム」を作り上げることである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を意識して日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地理的な位置や、母体病院の理念も地域に根ざすことを目指しており、孤立感はない。病院の地域活動と連動しており、川沿いの道や公園などの散歩で市民との接触の機会がある。また、ボランティアの訪問も積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義は、十分に理解し全員で取り組んでいる。課題となった項目の改善は、できるだけ努力をしていることがうかがえた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議メンバーの拡充に努力しており、この活動を通して地域とのつきあいを広げることにつなげている。提言の実現など、サービス向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からないことや疑問に思うことがあれば、役場の担当者と連携を図り、ケアの質の向上にとともに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方の家族には、毎月発行のホーム便りに手紙を添えて報告している。来訪される家族には、小遣い帳にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム便りに添える手紙でも、要望等の提案を要請している。近隣の家族の来訪時や家族交流の機会にも意見・苦情を取り上げるよう取り組んでいるが、苦情等はあまり多くはない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ代わりは少ない。両ユニット間や一部病院との異動はあるが、日常の配慮もあり、ダメージはあまりないようである。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて職員を、実務者研修や法人内研修に参加させている。復命書は全員に回覧されていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入っており、管理者や職員代表が出席し、情報交換やネットワーク作りに取り組んでいる。ケアの質の向上につながるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近入居した利用者の場合は、急を要する事情のため、なじみながらの利用とはならなかったが、基本的な考え方はしっかり持っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	いなり寿司の作り方や、餅つきの仕方等を教わるなど、豊富な知識経験を学ぶこともあり、支えあう関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所としての理念にあるように、自分のペースで生活が送れるよう、本人の意向に合わせた介助をすることに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの情報がある場合にはそれも参考にしながら、基本的には一定期間の職員全員の観察結果や気づきに基づいて、それらを生かした介護計画作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6か月ごとに行うが、本人の状態変化は個々の職員の観察を収集する形をとっている。見直された計画は、職員が常に目を通せるようにしている。	○	介護計画の見直しは確実に行われているが、本人の状況の把握は職員に対して個々に行われているようである。コミュニケーション強化のためにも、月に1回程度の全員によるケア会議の開催を勧めたい。ケアの質の統一化を図るためにも有効と考えられる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限り、例えば希望する美容院や母体病院以外の診療科受診など本人・家族の要望に応じるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業母体が病院であり、緊急時は24時間対応可能である。また、希望する病院を受診できるように支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では入院加療が必要になった場合は母体の病院に入院しており、重度化や終末期に向けた方針作りの活動は特には行っていない。	○	事業母体が病院であり、その敷地内にホームがあることで病院への依存が大きい。ここでは、「重度化や終末期に向けた方針について家族や本人・掛かりつけ医等と共有する仕組み作り」が求められていることに対する十分な理解が得られた。今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	個人に合った対応を心がけ、特にプライドを傷つけないように支援している。記録の取り扱いにも十分な注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、その人のペースや思いを大切にし、できるだけ希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることは自分で、支援が必要な場合はさりげなく、入居者と職員が助け合いながら、食事を楽しんでいる様子が見られた。多くの方が食事後の食器を流し台まで運ぶなど微笑ましい光景があった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意向を尊重し、タイミングに合わせて支援している。更衣の場所にもエアコンが設置され、気持ちよく入浴できるように配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人に合った役割や共通の楽しみごと、気晴らしを日々の生活に取り入れるように工夫しながら支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物や、すぐそばにある川沿いの道や公園に出かけている。リハビリの送迎も外出支援の一環ととらえている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアには十分心がけているが、現状では事情を抱えた利用者が複数いて、安全確保のために鍵をかけている場合が多い。可能な限り鍵をかけない時間を持つべく心がけている状況である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を毎月実施している。夜間訓練も年に1回行っている。必要な場合は、病院の職員寮からの支援が得られる体制が整っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、母体病院の栄養士の食事メニューを参考にしながら調理している。個人の食事量への配慮や水分摂取量の記録などを行い十分な支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である廊下や居間の壁に、季節感のある手作りの作品が飾ってある。全体に落ち着きのある大人の生活の場といった雰囲気は漂っている。利用者と職員が協働で「場」作りに心がけていることがうかがえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室は、本人と家族が相談しながら家具調度品の配置を行っている。見学できた居室には、使い慣れたタンスが置かれていた。		

※  は、重点項目。